

教員免許状所持者向けの公認スポーツ指導者資格を創設

JSP0（正式名称：公益財団法人日本スポーツ協会 東京都新宿区／会長 伊藤雅俊）は、令和4(2022)年度から教員免許状所持者向けの新たな資格として、すでに養成を開始している競技別指導者資格のスタートコーチ資格のひとつとして「スタートコーチ（教員免許状所持者）」の養成を開始することになりました。

■ 資格概要

資格名称：	スタートコーチ（教員免許状所持者）
講習形態：	オンライン
カリキュラム：	共通科目スタートコーチ 15h+専門科目 4h 以上
受講条件：	教員免許状所持者 ※部活動指導経験者（指導期間等是不問。例えば初任者で部活動の顧問を担当することになった方が指導開始直後に受講する場合も受講を認める。）
費用：	14,980 円 受講料 1,980 円 ※教材(リファレンスブック)代：1,320 円含む 登録料 13,000 円 ※4 年間。初期登録手数料を含む。2023 年 4 月登録以降は 13,300 円。
更新研修：	有効期限の 6 か月前までに最低 1 回受講

■ 講習概要

教材・課題：	すべてオンライン
課題の内容：	共通科目 オンラインテスト全 50 問(期間中何度でも回答可能) 専門科目 ハラスメント防止動画の視聴(予定)
修了基準：	オンラインテストのクリア(60%以上の正答で合格)と動画視聴
期間：	2 か月半～5 か月(受講申込から資格認定まで)

■ JSP0 公認スポーツ指導者資格における位置づけ

	メディカル・コンディショニング資格 <small>(共通科目の受講は不要な資格)</small> スポーツドクター スポーツデンティスト	共通 IV	競技別指導者資格 コーチ4 上級教師	
共通 III	アスレティックトレーナー スポーツ栄養士		フィットネス資格 フィットネストレーナー <small>(新規養成中止)</small>	コーチ3 教師
共通 II		共通 I	スポーツプログラマー	コーチ2
共通 I	スポーツ指導者基礎資格 スポーツリーダー <small>(新規養成中止)</small> コーチングアシスタント	マネジメント指導者資格 クラブマネジャー アシスタントマネジャー	ジュニアスポーツ指導員	コーチ1
スタート	スタートコーチ（教員免許状所持者）		スタートコーチ	

※スタートコーチ資格は2019年度から養成開始。2021年10月現在の認定者数はバレーボール783名、ハンドボール259名。2021年度からはスポーツ少年団でも養成を開始。

※公認スポーツ指導者資格の概要については以下をご参照ください。

<https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid58.html>

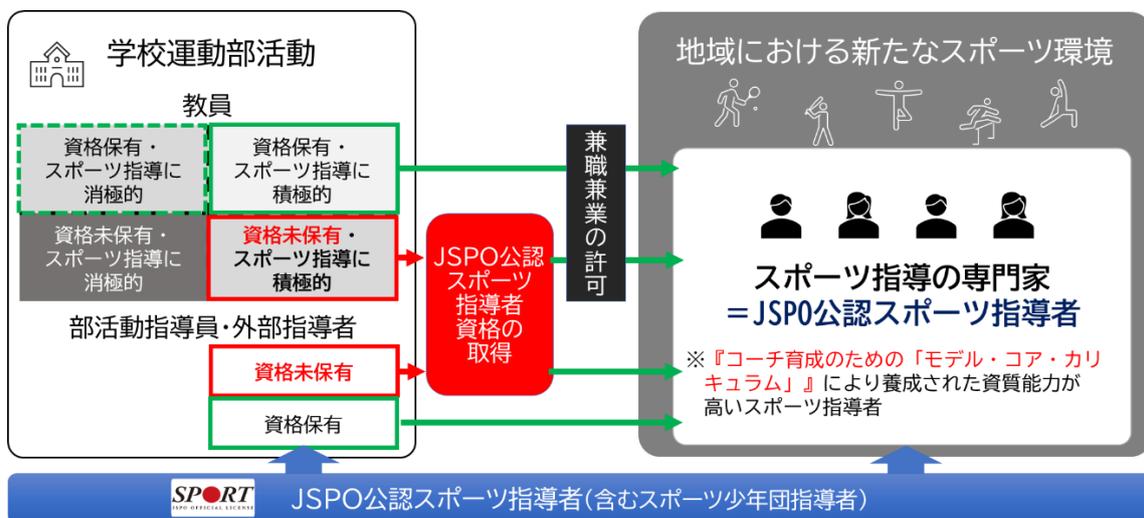
■ 創設の背景・趣旨

運動部活動改革については、中学生や高校生のスポーツ環境を維持・充実することと、教員の働き方改革を実現することが課題となっており、生徒それぞれが望むライフステージに応じた多様なスポーツ活動を実現するための対応策として、運動部活動を地域に移行し「新たな地域スポーツ環境」を構築する取り組みが検討されています。



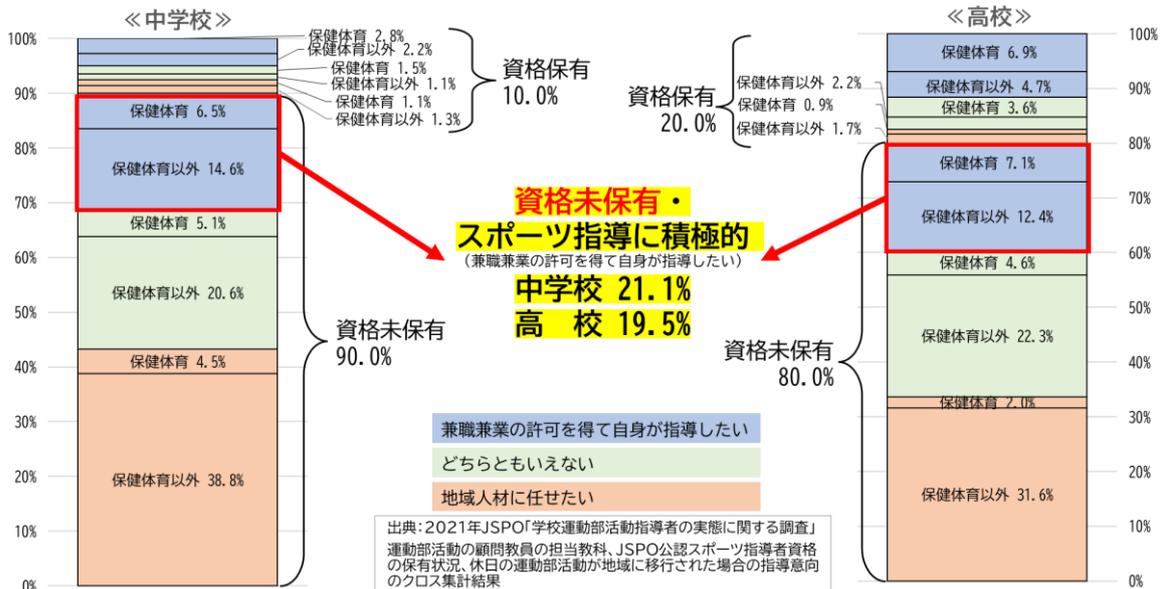
その取り組みを実現するためには、ヒト、モノ、カネ、情報などの資源をいかに確保するかが重要となりますが、中でも、指導者の質の保証および人材の確保・育成が急務となっています。

JSP0では、スポーツ指導の専門家として、『コーチ育成のための「モデル・コア・カリキュラム」』に基づき、JSP0公認スポーツ指導者を養成しており、現在、約20万人を認定しています。その多くは、すでに指導現場を持っているため、これから構築される「新たな地域スポーツ環境」においても指導可能な人数には限りがあります。そのため、運動部活動の顧問をされている教員のうち、スポーツ指導に積極的な教員については、兼職兼業の許可を得て「新たな地域スポーツ環境」でも指導いただけるように、新たに創設する資格も含めて、JSP0公認スポーツ指導者資格を取得いただきたいと考えています。



■ 教員における資格保有状況・部活動が地域移行された場合の希望状況

JSPO が令和 3(2021)年に顧問教員を対象に実施した「学校部活動指導者の実態に関する調査」結果から、公認スポーツ指導者資格の保有状況と、部活動が地域移行された場合の希望状況についてまとめたところ、資格を未保有で、兼職兼業の許可を得て指導したいというスポーツ指導に積極的な教員は、中学校で 21.1%、高等学校で 19.5%という結果でした。



以下の表は、「学校基本調査」とスポーツ庁が実施した「運動部活動等に関する実態調査」の結果から推計したものとなります。中学校と高校の教員約 46 万 3 千人のうち、公認スポーツ指導者資格を未保有で「兼職兼業の許可を得て指導したい」教員は、推定 62,400 人となりました。

	教員数		資格保有		資格未保有					
	R3 調査	運動部顧問	全体		全体		兼職兼業の許可を得て自身が指導したい		どちらともいえない	
	人	人(推計)	割合	人数(推計)	割合	人数(推計)	割合	人数(推計)	割合	人数(推計)
中学校	248,253	174,000	10.0%	17,400	90.0%	156,600	21.1%	36,700	25.7%	44,700
高校	214,978	132,000	20.0%	26,400	80.0%	105,600	19.5%	25,700	26.9%	35,500
	463,231	306,000		43,800		262,200		62,400		80,200

【使用データ】

令和 3 年度「学校基本調査 中学校／高等学校（全日制）
平成 29 年度「運動部活動等に関する実態調査」（スポーツ庁）
令和 3 年「学校運動部活動指導者の実態に関する調査」（JSPO）

※各調査結果については以下をご参照ください。

令和 3 年度「学校基本調査 中学校／高等学校（全日制）

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k_detail/1419591_00005.htm

平成 29 年度「運動部活動等に関する実態調査」（スポーツ庁）

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/detail/1406073.htm

令和 3 年「学校運動部活動指導者の実態に関する調査」（JSPO）

<https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid1280.html>

■ 資格未保有・スポーツ指導に積極的な教員に推奨する資格

資格を未保有で、兼職兼業の許可を得て指導したいというスポーツ指導に積極的な教員（教員免許状所持者）に取得を推奨する資格としては、新たに創設する「スタートコーチ（教員免許状所持者）」に加え、免許状の科目と指導対象に応じて、既存の競技別指導者資格も推奨資格といたしました。これは、保健体育の教員の方が、より競技性や専門性が高い指導を行う可能性が高く、高校生ではさらに高いコーチングスキルが求められるためです。

教科	指導対象	
	中学生	高校生
保健体育	コーチ1	コーチ3 ※コーチ3未養成やコーチ1から段階的に取得する競技はコーチ1
保健体育以外	「スタートコーチ （教員免許状所持者）」 ※スタートコーチ資格養成競技は当該資格	

■ まとめ

JSP0では、「スタートコーチ（教員免許状所持者）」の養成を含め、今後も、生徒それぞれが望むライフステージに応じた多様なスポーツ活動の実現に貢献するため、より多くの方々にJSP0公認スポーツ指導者資格を取得いただくための取り組みを進めてまいります。